地域密着型サービス評価の自己評価票

() 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目	
-------------	--

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)		
I.理	I. 理念に基づく運営					
1. 3	理念と共有					
1	〇地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の「①自由な暮らし②願いや想い③人との絆 そして自分らしさを大切に」という理念を基に事業所内の職員で話し合い、具体化している。				
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に 向けて日々取り組んでいる	理念は見やすいところに掲示し、朝の申し送り時には必ず唱和している。 カンファレンス等の会議では、理念を基に入居者の日々の生活を見直し、よりよい生活が送れるようケアプランへ反映している。				
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	2ヶ月に一度の運営推進会議や家族会で、活動内容の報告や検討を行っている。 また、ご家族には入居時に理念とケアの方針を説明し理解を得ている。理念を事業所内の見やすいところへ掲示し、実習生や見学者へも理解していただけるよう取り組んでいる。				
2. :	地域との支えあい					
4	〇隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声を かけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえる ような日常的なつきあいができるように努 めている	日常の挨拶をはじめ、法人の催し物の案内や地域交流プラザでの月に1回の料理教室、こども見守り隊における下校時の小学生との関わりや地域のゲートボール大会の応援等の地域の行事へも参加し、気軽に立ち寄ってもらえるような付き合いを目指している。				
5	〇地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、 自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、 地元の人々と交流することに努めている	地域のゲートボール大会や運動会の応援,下校時のこども 見守り隊,法人の清掃活動であるクリーンアップ運動での地域の清掃活動,地域交流プラザでの催し物等、利用者ととも に積極的に参加し交流を図っている。				

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	〇事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	緊急時の避難場所として地域へ提供しているとともに、ゲートボール大会の応援や清掃活動等、入居者も地域の住民として積極的に地域の行事へ参加している。 また、運営推進会議を通し認知症の勉強会を行ったり、菜園で採れた野菜を近隣の方へ配り、地域の方が気軽に立ち寄り相談できるような関係作りを図っている。		
3. 3	理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部 評価を実施する意義を理解し、評価を活かして 具体的な改善に取り組んでいる	管理者が外部研修へ参加し評価の意義を理解するとともに、職員への伝達講習を行い、全職員で評価に取り組んでいる。 前回の評価のアドバイスをもとに、担当者会議を毎月行い、本人やご家族からの意見, 医師や管理栄養士からのアドバイスをもらい、ケアプランの充実を図っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や 話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上 に活かしている	運営推進会議の際に自己評価や外部評価の結果,活動内容等を報告し、意見や助言をもらっている。また、それらのアドバイスを報告書に記載し、スタッフ会議でさらに検討し、サービスの向上へ活かしている。		
9	〇市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外 にも行き来する機会をつくり、市町村とともに サービスの質の向上に取り組んでいる	新人の市役所職員の現場研修を受け入れ、認知症の方の 理解や意識改革につながるような研修プログラムを立案し、 入居者や職員との意見交換を行っている。 家族会の主催で、市役所の職員による出張講習会を開催 し、市職員とご家族との意見交換も行い、質の向上に取り組 んでいる。		
10	〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそ れらを活用できるよう支援している	新人研修の際に教育するとともに、外部研修への参加や法 人内でも定期的に勉強会を開催し、全職員が理解し活用で きるように努めている。 実際に入居者の中に制度を利用されてある方もおられる。		
11	〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	新人研修の際に教育するとともに、外部研修への参加や法 人内で定期的に勉強会を開催し、人権や拘束について学 び、意識付け、防止に努めている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(0印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 3	理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族 等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い 理解・納得を図っている	実際にホームの様子を見て体験していただき、その場で説明するとともに、重要事項の説明や契約書において疑問点等があった場合は、十分な説明を行い、理解、同意を得ている。 また、2ヶ月に1回家族会を開催し、ご家族のみで協議していただき、不安や疑問点の抽出に努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員や県,市への苦情相談受付の窓口を明示し、利用者の意見が反映できる体制を整えている。 「ぶどうの会」という利用者の会を月に1回開催し、意見や不満の抽出に努めるとともに、個別に時間を設け、その人らしい生活が送れるよう会議の場で検討し、反映している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金 銭管理、職員の異動等について、家族等に定 期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には、毎日の個人記録を見ていただき、現状を報告し、サインをいただくとともに意見や希望を聞いている。預かり金については、ノートを作成し、定期的に残金の確認をしていただき、サインをいただいている。また、健康状態に変化があれば、必要に応じ随時報告し、受診等の理解や協力が得られるようにしている。職員の移動の際は、家族会で報告し、理解を得ている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員や県、市への苦情相談受付の窓口を明示し、ご家族の意見が反映できる体制を整えている。 2ヶ月に1回家族会を開催し、その際に、ご家族だけで協議していただき、抽出に努め、意見や苦情を会議で全職員へ伝達し、吟味、反映している。また、日常からご家族との親密な関係作りを心がけている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見 や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議の際に全職員に意見を求めるとともに、日帰り旅行等を行い、職員間の関係作りを行っている。また、法人の上司による個別面談を行い、意見を個別に求めている。職員の意見は全職員で共有し、職員会議で吟味し、反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	受診, 催し物への付き添いや会議等必要に応じ勤務変更を行い、ゆとりを持てるよう調整している。また、2ユニットでそれぞれに職員を固定しているが、頻回に行き来し、全職員で入居者との関係を作り、緊急な事態の時には応援体制をとり職員を確保している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は最小限に抑えているが、ローテーションや研修生の受け入れ等で職員の顔が増えることは多い。 入居者によく説明し、納得していただくことで、逆に力を発揮される場面もみられる。 また、職員の移動がある場合は、 入居者とともに送別会や歓迎会を行っている。		
5	人材の育成と支援			
19	にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象 から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を	新規採用者に対しては、ローテーションで各部署を経験し、 個々にあった部署への配属をこころがけるとともに、職員の 能力が発揮できるように助言し、生き生きと末永く働けるよう		
20	〇人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	新人職員への新人研修や、法人内の人権,接遇等の研修, 外部研修等に参加し、日頃から職員に対し意識化している。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成 するための計画をたて、法人内外の研修を受け る機会の確保や、働きながらトレーニングしてい くことを進めている	新人職員には、16時間でのオリエンテーションと基礎研修及び4週間のローテーションにより、様々な職場を体験してもらう教育制度を設けている。入社後も、個々の職員の段階に合わせ、法人内の研修や外部研修への参加を促しスキルアップを図るとともに、介護福祉士や介護支援専門員等の資格取得を支援している。		
22	流する機会を持ち、ネットワークづくりや勧強会	市主催の安心介護相談員を交えた交流会に参加し、意見交換を行い、交流を図っている。また、県のグループホーム協議会にも会員登録し、勉強会にも積極的に参加し交流を図るとともに、他事業所からの研修を受け入れ、第三者からの気づきを得てサービスの向上に取り組んでいる。		
23	〇職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減する ための工夫や環境づくりに取り組んでいる	毎月の会議での意見交換や食事会,小旅行等を行い、交流を深めるとともに、気になる職員には個別に時間を設け、ストレスが蓄積しないよう配慮している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
24	〇向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、 勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人ひとりの個性や長所を把握し、新人や研修生の指導を通して能力を発揮し自身を持たせることで、職員の向上心アップを図っている。 また、介護福祉士や介護支援専門員等の資格取得への支援を行っている。			
	安心と信頼に向けた関係づくりと支援 相談から利用に至るまでの関係づくりとその)対応			
25	〇初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込み時や利用前にご家族とともに本人さんにもホームを見学していただき、ホームの雰囲気を知っていただくとともに、不安や想いを引き出せるようにしている。 また、認知症対応型通所介護の申請を行い、実際にホームを利用していただき知っていただくとともに、在宅生活中から馴染みの関係作りに取り組むこともできる。			
26	〇初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っている こと、不安なこと、求めていること等をよく聴く機 会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込み時や利用前にホームを見学していただき、ホームの雰囲気を知っていただくとともに、現在及び今後についての不安や想いを引き出せるようにしている。			
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず 必要としている支援を見極め、他のサービス利 用も含めた対応に努めている	利用申し込みや相談を受けた際に、現在の本人さんやご家族の状況等をお聞きし、緊急性があれば他の事業所や地域包括支援センターを紹介したり、法人内のサービスであるショートステイや配食サービス等を紹介するなどし、対応している。			
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には必ずホームを見学していただき、利用者や職員と関わっていただいている。また、認知症対応型通所介護の申請を行い、入居前にデイサービスを利用し、ホームの雰囲気を知っていただき、職員や入居者との関係を築けるようにしている。			
2. }	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の生活において喜怒哀楽をともにし、食事作りや後片付け、掃除や洗濯等生活全般に関わっていただき、馴染みの料理や工夫等、個々の経験や知識を教えていただき、活用している。			

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
30	〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えてい く関係を築いている	花見や忘年会等ご家族とともに行う行事を計画し、お手伝いを依頼するなど、積極的に参加していただき、準備の段階から関わっていただき、ともに作り、ともに楽しめる関係を大切にしている。また、面会時には、記録物に目を通していただき、意見や要望をお聞きし、ご家族ともに本人さんを支えるような関係を心がけている。			
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、 より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族より情報を得て大牟田方式によるアセスメントを行い、 関係の理解に努めるとともに、入居後は、気軽に面会にきて いただけるような雰囲気作りを全職員で心がけている。また、 ご家族の宿泊も可能であり、食事も提供している。自宅への 外出や外泊等も積極的に支援し、家族で過ごす時間を大切 にしている。			
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用されていた病院や理髪店等との関係が継続できるよう送迎や付き添いを行い、支援している。また、ご家族だけではなく、親しい知人や友人の面会も積極的に受け入れている。 本人さんの希望があれば、ご家族と相談、協力し合いながら、本人さんの想いに添えるように支援している。			
33	〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよ うに努めている	テーブルやソファー等入居者の居場所を配慮し、会話や関わりがもてるよう心がけているとともに、食事の準備や後片付け、掃除や洗濯等個々の能力にあわせた役割をもっていただき、利用者同士が助け合い、関わる機会を設けている。			
34	〇関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な 関わりを必要とする利用者や家族には、関係を 断ち切らないつきあいを大切にしている	法人外へ転居された方には、利用時に仲の良かった方とともに訪問し、関係が途切れないようにしている。 法人内へ移られた方には、頻回に訪問し、関わりを持つように心がけている。			
	Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
	○思いや意向の把握	個別で担坐の隣員な沈め、脚沈ひの間 <i>にも、फ</i> てしばりて 辛田主ニ			
35	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に 検討している	個別に担当の職員を決め、馴染みの関係を作るとともに、意思表示が可能な方へは、個別に時間を設けたり、入居者の会である「ぶどうの会」を通し、希望や意向の抽出と把握に努めている。困難な場合は、本人さんの生活歴を考慮し、ご家族も交え、本人さんの希望に添えるように職員会議で検討している。			

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活 環境、これまでのサービス利用の経過等の把 握に努めている	入居時に、ご家族にも協力していただきアセスメントを記入していただくことで、利用前の生活環境や生活習慣、家庭での役割等を知り、ホーム内でも活かせるように努めている。			
37	〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝のバイタル測定による体調の確認とともに、入居者一人 ひとりに担当の職員を決め、個々の暮らしや残存能力等の 把握に努めるとともに、職員会議や担当者会議で全職員へ 周知している。			
2. 7	本人がより良く暮らし続けるための介護計画	回の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイディアを反映した介 護計画を作成している	日常生活の中から本人さんの想いや希望を引き出し、面会時にはご家族にも意見や希望を記載していただき、本人本位の介護計画の作成に努めるている。また、介護計画は、かかりつけ医や管理栄養士等の関係者とも協議し、作成している。			
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、 見直し以前に対応できない変化が生じた場合 は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現 状に即した新たな計画を作成している	毎月月末に経過を記録し、期間終了時には評価を行うとともに、毎月の担当者会議で協議し、新たな計画へとつなげている。また、期間内であっても本人さんの状態に変化があった場合は、随時担当者会議を開き、計画を見直している。			
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工 夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実 践や介護計画の見直しに活かしている	個別に担当者を決め個人ファイルを作り、介護計画の作成, 見直しを行っている。 毎日の個人記録とともに、介護計画,心身情報シートを記入 し綴じ込み、必要に応じてセンター方式を活用し、情報を収 集,共有し、介護計画へ活かしている。			
3.	3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	〇事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をし ている	個々の要望に応じて、受診や買い物等の送迎や付き添いを 行っている。 認知症対応型通所介護の申請を行い、デイサービスの利用 も可能である。			

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(0印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 3	本人がより良く暮らし続けるための地域資源	まとの協働		
42	〇地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通し、地域の民生委員の方や警察,教育機関等の方々に入居者を理解してただくために食事の機会を設け、馴染みの関係作りを行っているとともに、福祉学習等の地域の学生も積極的に受け入れ、交流を図っている。		
43	〇他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	協力病院の医師による往診や訪問看護,地域支援診療所の活用,市の高齢者サービス等、地域包括支援センターや法人内のケアマネージャーと話し合い、必要なサービスの利用を支援している。		
44	〇地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、 地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員にも運営推進委員として、運営推進会議に参加してもらい、いつでも助言やアドバイスがもらえるような体制を整えている。		
45	〇かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院による往診や検査の体制は整えているが、本人さんやご家族が希望される医療機関にかかられるように支援している。また、医療機関へ受診される際には、送迎や付き添いのサービスを行うとともに、個別に生活の様子を記入した状態報告書を作成し、本人さんとご家族の了解を得て医療機関に提出し、適切な情報の共有を図っている。		
46	〇認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	日常の様子から、個別に心身情報シートや個人記録等を記入し、協力病院の医師や掛かりつけ医等に指示を仰いでいる。また、認知症専門医や物忘れ外来等を紹介し、受診の支援も行っている。		
47	〇看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看 護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理 や医療活用の支援をしている	職員に看護職員を配置するとともに、配置看護師を置き、入居者の健康管理に努め、地域支援診療所や協力病院、かかりつけ医とも協力し、訪問看護サービスを利用される場合もある。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、 また、できるだけ早期に退院できるように、病院 関係者との情報交換や相談に努めている。ある いは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはサマリーを作成し情報提供を行うとともに、定期的に面会へ行き、入院先の医師や看護師と相談し、本人さんやご家族の意向をもとに、早期退院へ向け、医療機関と連携し、ホームでの治療が可能な場合は訪問看護サービスを活用している。			
49	きるだけ早い段階から本人や家族等ならびにか	入居時に、医療受領確認書を記入していただき、本人さん やご家族の終末期に対する意向を把握するとともに、状態の 変化に応じ、随時確認し直している。また、看取りの同意書 を作成し、看取りの希望があれば協力病院や地域支援診療 所との連携をもとに全員で方針を共有している。			
50	るために、事業所の「できること・できないこと」を	協力病院や地域支援診療所との連携をもとに、24時間、365日での医療を確保し、吸引器やパルスオキシメーター、AED等を設置し、使用方法の研修を定期的に行い、全職員が急変時に対応できるようにしている。また、日頃から本人さんやご家族の意向を聞き、職員会議でできることとできないことを話し合っている。			
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係 者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住 み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームを退去し他のところへ移られる際は、本人さんやご家族の了解のもと日々の生活の様子や健康状態などの情報を提供している。また、退去後も次の利用先へ面会に行き、新たな関係者との情報交換を行い、住み替えによるダメージの軽減を図っている。			
	Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
	その人らしい暮らしの支援 一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような 言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱 いをしていない	記録物は所定の場所に保管し、ホーム外へは持ち出さないよう徹底している。 また、プライバシーを傷つけないよう個々の性格を把握し、排泄の失敗などは個々に居室へ誘導し、対応している。			

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりに合わせた説明を行い、個別に話をする機会を設け希望を表せるよう支援している。また、入浴や外出等必ず本人さんの意向を聞き、自己決定していただくとともに、個々のわかる力に合わせ、個別に選択肢を提供し、自己決定を促している。		
54	〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出の希望があれば送迎や同行することを伝え、了解を得て付き添い、食事や入浴の時間を遅らせる等柔軟に対応している。また、業務に細かい決まりを作らず、いつでも希望に添えるよう体制を整えている。		
(2)	その人らしい暮らしを続けるための基本的	な生活の支援		
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援し、理容・美容は本人の望む店に行ける ように努めている	男性は髭剃りを持参されたり、女性は化粧品や三面鏡を持ち込まれ、整髪や化粧などの手助けを行い、外出時には外着に着替え、化粧をし外出している。また、希望があれば理容店等への送迎や付き添いも行っている。		
56	〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に 準備や食事、片付けをしている	入居者の好みの物を聞き出し、積極的にメニューに取り入れ、1日と15日には赤飯や刺身を用意し、食事に楽しみを持ってもらっている。また、買い物や準備の段階から食器の収納まで全ての工程において入居者とともに行い、同じ食事をとっている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、 好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常 的に楽しめるよう支援している	希望があれば買い物に付き添い、自由に買い物をしていただき、本人さんの健康状態や意向を考慮し、晩酌を含め自由に楽しめるよう支援している。また、居室に冷蔵庫を持ち込むことも可能であり、いつでも好きなときに飲食できるよう支援し、定期的に職員が本人さんとともに冷蔵庫の中身を確認し、管理している。		
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成しトイレ誘導を行い記入することで、排泄のパターンを把握し、トイレでの排泄を促している。また、布パンツや尿取りパット,紙パンツ等、個別及び昼夜で使い分けている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(0印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、 入浴を楽しめるように支援している	毎日午後から入浴できる体制を整え、無理強いせず、入りたいときに入っていただいている。また、夕食後の入浴も可能である。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活習慣をアセスメントし、食事や入浴,休息等本人 さんの意向に添えるよう体制や環境を整えている。		
(3)	その人らしい暮らしを続けるための社会的	な生活の支援		
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみ ごと、気晴らしの支援をしている	調理や後片付け、掃除や洗濯物たたみ等個々の能力合わせた役割を持っていただくとともに、若い頃得意とされてあった裁縫や大工仕事等も取り入れている。 また、買い物やドライブ等外出の機会を多く持ち、ホームの中だけの生活で終わらないよう努めている。	0	更なるアセスメントの充実を図り、個々の能力を見極めできることを発掘し、役割を増やしていきたい。
62	〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解 しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金 を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には自己管理していただき、支払いもしていただいている。管理が困難な方はホームで預かり、いつでも希望に応じ使えるようにしている。		
63	〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのそ の日の希望にそって、戸外に出かけられるよう 支援している	散歩や買い物等の外出時は、送迎や付き添いを行い、希望 に添えるようにしている。 お盆や正月等にはご家族へ外泊の声かけを行い、ご自宅で 過ごされるよう勧めている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見やドライブ等季節に応じて生活の中に取り入れ、希望があれば、随時個別または他入居者とともに出かけ、希望に添えるようにしている。また、面会時等にご家族の希望があれば、車椅子の貸し出しを行い、ご家族との食事や外出を支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手 紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される際はダイヤルし、本人さんと変わり話していただいている。 本人さん宛ての郵便物は、直接本人さんへ渡すとともに、正月には直筆の年賀状を作成し、ご家族との絆を大切にしている。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たち が、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせ るよう工夫している	いつでも面会を受け入れ、リビングや居室など好きなところで 過ごしていただき、お茶をすすりながらくつろいでいただける ようにしている。希望時は食事や宿泊も可能であり、ご家族 や馴染みの人との時間を大切にしている。		
(4)	安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を 正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人研修や法人内の研修等で、身体拘束で本人さんが受ける肉体的および精神的苦痛を理解し、拘束をしないケアを徹底し、見守りや付き添いでのケアに取り組んでいる。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に 鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけ ないケアに取り組んでいる	玄関は日中は施錠せず、誰でも自由に出入りできるようにし、センサーを用いて人の出入りのみ音で分かるような仕組みにしている。また、居室は内側からの施錠が可能であり、内側から施錠される方もおられる。夜間等の巡回時は事前にマスターキーで開錠することへの了解を得て開錠し、見守りを行っている。		
69	〇利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼 夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全 に配慮している	キッチンが対面式のオープンキッチンになっており、ホーム内での入居者の動きが分かるような作りにしている。ホームから出られる際には声かけを行い、付き添っている。 夜間や居室で過ごされる際は定期的に巡回, 訪室し、見守りを行っている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、 一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組み をしている	職員が少なくなる夜間帯は、洗剤や包丁等の危険物を戸棚や引き出しになおし、チェック表を作成し徹底している。 自己管理が可能な方は居室にはさみや包丁、ライター等を持っておられるが、定期的に職員が使用方法などの確認を行い、安全に使用されているか確認している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)			
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐた めの知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事 故防止に取り組んでいる	個々に担当職員を決め、居室の整理整頓を心がけ足元の安全を確保するとともに、居室内に個々に合わせて手すりや平行棒を設置しリスクの軽減をはかり、自立した生活が送れるよう環境整備している。 また、万が一の事態に備え、地域の派出所や消防署, 近隣の住民の方に、運営推進会議の場を用い協力の理解を得ている。					
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に 行っている	法人内やホームで研修を行い、AEDや吸引器の使用方法,連絡方法等、緊急時に備えた訓練を定期的に行っている。また、緊急時に備え、マニュアルを作成し、全職員があわてることなく対応できるようにしている。					
73	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年に2回行い法人全体で災害に備え、避難場所 や経路も周知している。また、運営推進会議や日常の交流 の中で、入居者の状況を伝え、緊急時に協力を得られるよう 働きかけている。					
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に 説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応 策を話し合っている	面会時に個人記録を見ていただき、現在の状況やリスクを説明し、対応策を検討するとともに、状態の変化とともに個々に応じた対応策を職員会議で話し合い、抑圧感のない自由な暮らしを大切にしている。					
(5)	(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
75	○体調変化の早期発見と対応一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、 気付いた際には速やかに情報を共有し、対応 に結び付けている	毎朝のバイタルサインや表情等に変化があれば、速やかに ご家族に連絡し対応策を検討するとともに、医師や看護師, 職員間で情報を共有し、変化を見逃さないよう観察を行って いる。					
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や 副作用、用法や用量について理解しており、服 薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に内服カードを作成するとともに、処方箋を保管し、薬の目的や効果,副作用の把握に努めている。また、内服が変更になった場合は、申し送りの際に変更の確認と作用,副作用の確認をしている。					

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、 予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動 かす働きかけ等に取り組んでいる	午前中に乳製品を提供し水分摂取量を増やすとともに、散歩や適度な運動を取り入れ、自然排便を促している。本人さんの排便パターンの把握に努め、自然排便が困難な方には医師と相談し、下剤を使用するなど個々に応じた排便コントロールに取り組んでいる。			
78	〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をして いる	毎食後、うがいや歯磨き、義歯洗浄などの声かけを行い、 個々の能力や状態に合わせた介助を行っている。義歯を使 用されてある方は、1日おきに洗浄剤を使用し、口腔内の清 潔保持に努めている。			
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士の助言のもと、個々の嗜好を積極的に取り入れ、摂取量や栄養バランス等を考慮し、食事を提供している。食事摂取量はチェック表を作成し毎食後に記入するとともに、水分摂取量等は一日1000mlを超えるように努めている。また、ご家族の方々や研修生、配置看護師等にも食事を食べていただき、第三者としての率直な感想や意見を求めている。			
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、 実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MR SA、ノロウイルス等)	それぞれの感染症に対しマニュアルを作成し、職員への周知, 徹底を図るとともに、感染症の流行時には食器乾燥機での高温殺菌処理を行っている。 インフルエンザの予防接種を、強制ではないが、全職員, 入居者ともに接種している。			
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台 所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安 全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や布巾等は定期的に殺菌消毒し、冷蔵庫内整理整頓を心がけ、随時消費期限の確認を行っている。 調理前や食事前には手洗いを徹底し、食中毒の予防に努めている。			
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)	居心地のよい環境づくり 〇安心して出入りできる玄関まわりのエ夫	1	<u> </u>		
82	〇安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやす く、安心して出入りができるように、玄関や建物 周囲の工夫をしている	玄関のスロープには手すりを設置し、周辺には季節草花や 木々を植え、誰でも気軽に出入りが出来、親しみやすい環境 作りに努めている。			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(0印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、 浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や 光がないように配慮し、生活感や季節感を採り 入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	洋風の創りではあるが、和風の家具や古風な物を揃え、家庭的で馴染みを感じれられる物を利用し、居心地のよい雰囲気作りを図っている。また、季節に応じた花や飾りをし、五感で季節を感じていただけるような環境作りを心がけている。		
84	〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合っ た利用者同士で思い思いに過ごせるような居 場所の工夫をしている	リビング以外にもテーブルや椅子, ソファー等を準備し、一人でも、気の合う仲間とでも、思い思い過ごしていただけるような場所を確保している。		和室の環境整備を行い、居室でもリビングでも和室でも、どこでもくつろげる環境をつくり、気の合う入居者同士の関係を今以上に支援していきたい。
85	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族の協力を得て、馴染みの家具や使い慣れた 日用品をそのまま持ち込んでいただき、若い頃の写真やご 家族の写真、テレビや冷蔵庫、仏壇等個々に合わせた環境 を作り、在宅に近い雰囲気作りを心がけている。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気 に努め、温度調節は、外気温と大きな差がない よう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに 行っている	居室は入居者一人ひとりに合わせた温度調節が出来るように、各居室に冷暖房を設置し、個々に合わせた快適な温度に調整している。 定期的に窓を開け換気を行うとともに、リビングには24時間換気扇を設置し、必要に応じ消臭剤使用する等、快適な環境作りを行っている。		
(2)	本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	〇身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、 安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう に工夫している	玄関やリビング内の手すりを初め、居室にも平行棒や家具等を設置し、個々の身体機能にあわせ自立した生活が送れるよう工夫している。		
88	〇わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗 を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室には表札を設け、好みの暖簾を飾り、アクセントをつけることで分かりやすくしている。 各居室にトイレを設置し排泄の失敗を防ぐとともに、失敗しても個別に対応し、混乱をまねかないようにしている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	周辺にはベンチを置き、いつでもくつろげるようにし、敷地内に菜園を作り、季節の野菜を育て収穫し、食材として提供している。 ベランダにはプランターや植木鉢を使い季節の花を育て、自由に 出入りできるようにしている。		

∇.サービスの成果に関する項目					
項目			最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。		
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	0	①ほぼ全ての利用者の		
			②利用者の2/3くらいの		
90			③利用者の1/3くらいの		
			④ほとんど掴んでいない		
	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	0	①毎日ある		
91			②数日に1回程度ある		
91			③たまにある		
			④ほとんどない		
		0	①ほぼ全ての利用者が		
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしてい		②利用者の2/3くらいが		
92	8		③利用者の1/3くらいが		
			④ほとんどいない		
	利用者は、職員が支援することで生き生きし た表情や姿がみられている	0	①ほぼ全ての利用者が		
93			②利用者の2/3くらいが		
93			③利用者の1/3くらいが		
			④ほとんどいない		
		0	①ほぼ全ての利用者が		
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		②利用者の2/3くらいが		
94			③利用者の1/3くらいが		
			④ほとんどいない		
	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不 安なく過ごせている	0	①ほぼ全ての利用者が		
95			②利用者の2/3くらいが		
95			③利用者の1/3くらいが		
			④ほとんどいない		
	利用者は、その時々の状況や要望に応じた 柔軟な支援により、安心して暮らせている	0	①ほぼ全ての利用者が		
00			②利用者の2/3くらいが		
96			③利用者の1/3くらいが		
			④ほとんどいない		
		0	①ほぼ全ての家族と		
0.7	職員は、家族が困っていること、不安なこと、		②家族の2/3くらいと		
97	求めていることをよく聴いており、信頼関係が できている		③家族の1/3くらいと		
			④ほとんどできていない		

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。		
	通いの場やグループホームに馴染みの人や 地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度	
98		0	③たまに	
			④ほとんどない	
	運営推進会議を通して、地域住民や地元の 関係者とのつながりが拡がったり深まり、事 業所の理解者や応援者が増えている	0	①大いに増えている	
99			②少しずつ増えている	
99			③あまり増えていない	
			④全くいない	
	職員は、活き活きと働けている	0	①ほぼ全ての職員が	
100			②職員の2/3くらいが	
100			③職員の1/3くらいが	
			④ほとんどいない	
	職員から見て、利用者はサービスにおおむ ね満足していると思う	0	①ほぼ全ての利用者が	
101			②利用者の2/3くらいが	
101			③利用者の1/3くらいが	
			④ほとんどいない	
	職員から見て、利用者の家族等はサービス におおむね満足していると思う	0	①ほぼ全ての家族等が	
102			②家族等の2/3くらいが	
102			③家族等の1/3くらいが	
			④ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

なかまちの家では、認知症対応型通所介護の申請をし、在宅生活中から職員や入居者、ホームの雰囲気を知っていただき、ホームでの生活に早く馴染めるように支援している。入居時は、ご家族の協力のもと、独自の「大牟田方式」というアセスメントツールを作成し、本人さんの生活歴や想いをアセスメントし、理念である「自由な暮らしとは?願いや想いとは?人との絆とは?そして自分らしさとは?」を模索し、ホームで本人本意の生活が送れるように支援している。また入居後も、ご家族と共に本人さんを支えることを重視し、花見や忘年会、法人の催事等、ご家族と共に作り上げている。また、家族会ではご家族だけで話し合いをしていただき、活発な意見交換や、他の施設見学等も計画されている。運営推進会議では、地域住民と共に地域資源である派出所や消防署、幼稚園等の関係者にも運営推進委員として参加していただき、ホームの活動報告を行うと共に、アドバイスをいただき、入居者との食事会を行い交流を図っている。

ホームでは、犬を飼い入居者の癒しに繋げると共に、ベランダにはプランターを設け、入居者と共に季節の花を育てている。毎日の生活でも食材や日用品の買い物をはじめ、食事の準備や後片付け、掃除から洗濯に至るまで個々の能力に応じた役割を設け、生活全般に関わることで、職員と生活を共にしている。面会時にはご家族に個人記録を見ていただき、ホームでの生活の様子を知っていただくとともに、意見や要望を聞き、ケアプランへ反映している。レクリエーションとして、週に1回のOTによる回想法や、併設特養での週3回の頭の体操、地域交流プラザでの革細工や料理教室などに積極的に参加している。また、地域住民の一員として、地域のゲートボール大会や運動会の応援や、子供見守り隊による下校時の子供達の見守り、地域の清掃活動への参加や法人独自のクリーンアップ運動による地域の清掃活動などに取り組んでいる。